

平成 29 年度市民対話集会会議録 (要約版)

日 時：平成 29 年 8 月 23 日 (水) 14 時 00 分
場 所：福社会館 6 階ホール

第4回市民対話集会会議録（要点）

- 1 日時 平成29年8月23日（水）14時00分～15時00分
- 2 場所 福祉会館6階ホール
- 3 団体 額田林業クラブ、額田木の駅プロジェクト 35名
- 4 内容
 - ① 開会
 - ② 市政ビデオの放映
 - ③ 市長挨拶・説明
 - ④ 団体代表要望・意見等
 - ⑤ その他要望等

（団体要望）

岡崎市森林整備ビジョンの推進と進捗管理体制の確立について

質問

高齢化、それに伴う後継ぎの不在などによって、森林の管理に対する意欲もなくなってきてしまっている実情があるので、市の方で林業者をリードまたは利用していただくことで、計画的な森林整備を推進していただきたい。また、その進捗状況について定期的に情報提供をしていただきたい。

回答（環境部長）

森林整備ビジョンのとおり計画が進んでいない部分もあるが、国や県の動向を見極めた上で、林業に携わる方のご意見を取り入れながら、もう一度計画の見直しをしていきたい。それに加え、定期的な中間報告をする形にも見直しをしていきたいと考えている。

計画的な森林整備の推進について

質問

あいち森と緑づくり税で整備してもらえる箇所以外に、個人によって間伐を行わなければならない箇所がある。こうしたところを森と緑づくり税の対象としていただけるような働き掛け、または新税導入による対応をお願いしたい。

回答（経済振興部長）

現在、国で森林環境税の導入が議論されている。この用途は、間伐、枝打ち、林道整備などだと思われるが、まだ確定していない状況である。その動向を見極め、財源の確保、そして、これを通じて本市の新たな森林整備を推進していきたい。

林道・作業道の整備について

質問

水源林を確保するために林道・作業道の整備は必要だが、個々の林業家ではなかなか難しい。行政で取りまとめをやっていただき、その全体的な話し合いの下に整備をしていただけないか。

回答（経済振興部長）

作業道の開設、既設作業道の改良をされる方への助成を実施しているが、経年劣化に伴う軽微な修繕は、原材料の支給によって地域の方に対応していただいております、ご協力に感謝申し上げます。大きな修繕、改良は、地域での要望を基に緊急性、危険度を考慮して進めていく。

公共建造物等における岡崎市産材使用の促進について

質問

仮称乙川人道橋をはじめ公共建築に取り入れていただくことになっているが、まだまだ使用量が少ないと思うので、岡崎市全体でそういう取り組みをお願いしたい。

回答（市長）

公共建造物等の整備における岡崎市産材利用の推進を図ってきているところであり、今後も仮称額田センターや乙川人道橋、児童育成センターなどで岡崎市産材を利用する予定になっている。公共施設以外でも、戸建て住宅の新築時に補助金を支給する制度もあり、市民に岡崎市産材を使っていただけるよう周知をしていきたい。

林地境界の明確化支援について

質問

今のうちに林地の境界を明確にしておかないと、何年か後に何らかの事業を行おうとしても、自分の土地がどこにあるのかわからないという事態になりかねない。このことに対する取り組みをお願いしたい。

回答（経済振興部長）

本市の森林整備において、所有者の了解を得ながら林地境界を明確にすることは重要な課題である。現在、法改正に伴う林地台帳システムの構築と合わせ、検討作業を進めるところであり、前向きに取り組むたいと考えている。

額田木の駅プロジェクトへの継続支援について

質問

これまでの額田木の駅プロジェクトの取り組みは、人工林の水源涵養機能を高めるだけでなく、額田地域の経済活性化にも貢献しており、さらには山間地に暮らす市民の交流の場としても機能している。このプロジェクトへの継続した支援をお願いしたい。

回答（経済振興部長）

額田木の駅プロジェクトは、額田地域の経済活性化、森林整備の推進において大変重要だと考えており、今後も力添えをいただきたい。財政的に、市が負担を続けていくことには限度があるかもしれないが、事業継続のために必要な措置として、できる限り応援したい。

地域材利用と森林環境教育の充実について

質問

森林再生のためには、山側の市民だけでなく、下流に暮らす市民の理解と行動が不可欠である。そのために、森の現状やその働きに関する環境教育や啓発活動を進めるとともに、さまざまな森の恵みを地域内で活用し、経済を回していくことが必要である。こうした環境教育や木材利用が長期的に継続されるような仕組みづくりを要望したい。

回答（市長）

環境教育については、現在さまざまな体験プロジェクトを実施しており、今度は、子どもたちが成長したときに森林のよき理解者となってくれるような、木育に力を入れていきたい。また、乙川人道橋における間伐材利用についても、これによって山間地の整備の必要性を訴えるような取り組みができないか考えている。地域経済という観点では、額田の素晴らしい景観、環境を活かした山間リゾートを計画し、これを地元の雇用創出や人口増につなげられないかと考えている。

森林資源の現状に対する理解について

質問

岡崎市は市域の60%以上が森林であるが、森林資源の現状が非常に不明確になっており、境界もわからなくなるという状況である。環境資源、循環型資源の在り方を、最新の科学的調査を用いるなどして、今一度客観的に調べ上げ、その成果として国際認証を取得していただきたい。

回答（環境部長）

森林認証は、額田の産材を有効に使うためには重要な話だと思っているが、さまざまにハードルが高いということも聞いている。皆さんのご意見を交換させていただきながら、勉強したいと考えている。

コンパクトシティに対する意見について

質問

コンパクトシティという考えが国策として進められているようで、これによって都市部へ人口が集中する一方、中山間地域は全国的に諦めムードであるかのように見受けられる。これについてどう考えているか、お答えいただきたい。

回答（総合政策部長）

国策として、都市の機能を中心市街地に集約しようという流れはたしかにあり、岡崎市もそれを進めているが、これは決して周辺部を切り捨てるというわけではない。市では一方で歴史まちづくりも進めており、これは地域が培ってきた伝統や風俗を守っていこうというものである。市としては、まちの力は利便性のよい所へ集め、その周辺で人の営みが続いている地域は歴史まちづくりという考え方で維持したい。

回答（市長）

これからの岡崎では、市域の6割を占める中山間地域をどのように活かしていくかということが大きな課題になる。国の政策というよりは、社会の流れ、あるいは人の生き方が変化したことによって、都市部での生活を選ぶ人が増えているような気はするが、中山間地を切り捨てるのではなく、中山間地に対して有効性のある政策を、皆さまと相談しながら考えていきたい。